

佐賀でコスモスの種まき

町内のまちづくりグループ「なぶら」が、8月27日、伊与木川堤防などにコスモスの種をまきました。

「なぶら」は、町内各団体や町民約20人のグループで、町内の公共施設への花を植える「花いっぱい運動」や「土佐さがのもどりガツオ祭」の共催、須賀留温泉の維持管理などの活動をしています。

毎年9月頃、コスモスの種まきをしています。ここ2年はうまく育たず、きれいに花を咲かせることができませんでした。

今年も、昨年より種をまく時期を2週間早め、成長に充分な時間が取れるように配慮。メンバーは、「今年こそは咲きますように」と願いながら種をまいていきました。



今年も黒潮町に「ふるさとインターンシップ」の若者がやってきました。今回初めて受け入れた蜷川地区での様子を紹介します。



◆ふるさとインターンシップとは

若者たちと地域づくりを進めたいという熱意を持った高知県の地域が、若者を1週間〜半年間受け入れるプログラムで、「NPO法人 人と地域の研究所」(高知市)が運営しています。

◆今年プロジェクト

黒潮町内では、▼黒潮のまちでそばづくり(蜷川)▼黒潮一番館のお土産コーナー魅力UPプロジェクト!(佐賀)▼黒潮一番館のリーダー増加プロジェクト!(佐賀)の3つが行われ、それぞれ、1〜3名の学生が参加し、地域の方と一緒にまちづくり活動に取り組みました。

ふるさとインターンシップであいの里で「そばづくり」

◆蜷川のそばづくり体験



であいの里のインターンシップ生。右から澤頭貴之さん(東京都出身、大学3年)、中村直人さん(日高村出身・大学院1年)、大沼愛奈さん(山形県出身・大学3年)。

であいの里蜷川では、昨年からは、そばづくりに挑戦しています。今年も、そばの作付面積を増やし、新しい体験メニューに「そば体験」を加えようと研究中です。

今回のインターンシップでは、8月23日から29日まで大学生2人と大学院生1人を受け入れ、実際にそばづくりを体験してもらいました。

体験内容は、そばの種まき作業



そばの種を石臼で2〜3回挽いてそば粉にします。



そば粉に水、つなぎ粉を加えてこね、麺棒で伸ばし、細く切ります。



茹で上がったそばをみんなで試食。不恰好でも味は格別でした。

と、そば粉作りから行う本格的なそば打ち体験です。

その他にも、川エビ獲りや、雑草取り、ハウスの見学など、充実した1週間を過ごしました。

最終日の現地報告会では、新しい地区の特産品として、そば団子鍋、そば茶、カツオそばなどのそばを活用したメニューや、そばの花見、そば畑のライトアップなど、ユニークな観光アイデアを発表。

今回の滞在について「蜷川は自然が豊かで、人が温かくて、すごくいい。この体験を、今後の進路や研究に生かしたい。蜷川にもまた来たい」と話していました。

受け入れた蜷川地区の方々にとっても、意味のある1週間になったことと思います。今回の経験を生かした、今後のまちづくり活動に注目です。